

# 令和3年9月7日 総合政策委員会 開催状況

開催年月日 令和3年9月7日

質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員

担当部課 総合政策部政策局参事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>一 新型コロナウイルス感染症対策について</b></p> <p>コロナ感染の拡大状況は、前の週との比較で減少の動きが見えているものの、事業所や学校での感染も広がり、さらにはデルタ株への置き換えも進み、8月26日には北海道も緊急事態措置となり、特定措置区域は10市町村になるなど、深刻な状況は続いています。感染の抑制を図る対策は引き続き重要課題であり、この間の有識者会議での議論も踏まえ、何点かお伺いしたいと思います。</p> <p><b>(一) 警戒ステージについて</b></p> <p>道は感染者が急増する前の段階における対策が重要との考え方から、独自の警戒ステージを設置し運用してきました。今後は国の動向も見据え、警戒ステージの見直しを実施予定とのことですが、昨年から今年にかけての感染拡大における防止対策としての道独自の警戒ステージの設定は、感染拡大の抑制につながったのかお伺いいたします。</p> <p><b>(二) 緊急事態宣言の国への要請について</b></p> <p><b>1 宣言要請の時期について</b></p> <p>第8回有識者会議でも、まん延防止等重点措置の早期適用に関し、国への要望として早期適用をもとめる発言が相次いでいました。道は7月20日、26日と立て続けに要請しましたが、国によって決定されたのは30日です。要請から、4日から10日経過しています。</p> <p>知事の要請に応じて機動的な発動をと、全国知事会の中でも緊急提言していますが、7月31日には、人口10万人あたりの新規感染者は、国の緊急事態宣言目安の25人もすでに上回っていました。緊急事態を要請しても、国が決定するまで時間がかかると言うことを知事は当然承知していたはずですが、そもそも緊急事態宣言の要請の時期が適切だったと考えているかお伺いします。</p> <p><b>2 宣言要請の緊急性について</b></p> <p>緊急事態措置の発令要請について、記者会見で知事は、なぜ要請ではなく依頼なのかとの記者の質問に「要請という制度はない」と答弁しています。では依頼という制度はあるのでしょうか。そうした言葉遊びのような発言こそ、国にも道民にも緊急性が伝わらないことになるのではないかと考えますが、見解をお伺いします。</p>	<p><b>【鞠子政策局参事】</b></p> <p>道の警戒ステージについてでございますが、道では、昨年8月、国の分科会提言を踏まえて、独自の警戒ステージを設定し、このステージに基づき、日々、モニタリングするとともに、毎週、対策本部会議や記者会見を開催し、道民の皆様の行動変容を促す上で必要となる感染状況等の共有を図っているところでございます。</p> <p>その上で、その時々々の感染状況を踏まえ、専門家や有識者等のご意見を伺いながら、ステージの移行をはじめ、必要な対策を講じ、感染の抑制に取り組んできたところでございます。</p> <p><b>【鞠子政策局参事】</b></p> <p>緊急事態宣言に係る国との協議についてでございますが、道では、国に対し、まん延防止等重点措置の要請を行う中、札幌市内における新規感染者数が大きく増加し、全道の数を押し上げていたことから、7月29日、国に対し、市内の厳しい感染状況を伝え、地域を限定した緊急事態宣言の考え方を含めて国との協議を行ったところでございます。</p> <p>その上で、国において、専門家の意見を踏まえ、本道にまん延防止等重点措置を適用するとの判断が行われたところであるが、その後も、継続的に道内の感染状況等について国と情報共有を図り、緊急事態宣言の適用等について協議を続けてきたところでございます。</p> <p><b>【鞠子政策局参事】</b></p> <p>文書によります国との協議についてでございますが、緊急事態宣言については、専門家のご意見を踏まえた上で、国の対策本部で総合的に判断されるものであることから、道といたしましては、厳しい感染状況について国と認識の共有を図りながら、7月29日以降、緊急事態宣言について協議を続けてきたところでございます。</p> <p>こうした中、特措法上、「要請」という制度はないわけ</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>【再質】</b> 確認しますが、依頼という制度はないのですね。</p> <p><b>【指摘】</b> 依頼か要請かは別として、例え決定するのが国だとしても、知事がどういう姿勢でこの道内の危機的状況を伝えているのか、そういう具体的に発信することなんですね。行動変容を求められている道民に、危機感が知事のメッセージとしてしっかり伝わるかどうか、ここが重要だと考えます。</p> <p>有識者からの道のスタンスを可視化すべきというご意見も、そういうことではないかと思しますので、ぜひそういうスタンスで向き合っていただきたいということを指摘します。</p> <p><b>3 デルタ株への危機感について</b> 道内の感染拡大の要因も、感染力の強いデルタ株が大きく影響していると考えます。9月2日付けの道の資料では、直近1週間では検査数の約90%がデルタ株となり、国においてほぼデルタ株に置き換わったとの見解が示されておりました。</p> <p>デルタ株の感染拡大に対する危機感の欠落が、緊急事態宣言要請の遅れにつながったのではないかとの認識はないでしょうか。</p> <p><b>(三) これまでの対応について</b> 緊張感を持って取り組んできたとおっしゃっていますが、知事自身、デルタ株は最大の危機感と表明しています。対策については、従来と変わることはなかったと思います。これでデルタ株に対応できると十分に考えたのでしょうか。感染拡大に伴い、最大限の対策をとらなかったのはなぜかについてお尋ねします。</p>	<p>ですが、有識者から、道のスタンスを可視化すべきといったご意見があったことも踏まえまして、8月19日、国に対し、これまで協議してきた内容について、文書の形で提出し、緊急事態宣言の適用について改めて検討を依頼したところでございます。</p> <p><b>【鞠子政策局参事】</b> 依頼という制度はございません。</p> <p><b>【鞠子政策局参事】</b> デルタ株への対応についてでございますが、道では、6月から道立衛生研究所においてデルタ株のスクリーニング検査を開始し、感染経路不明の陽性者の全ての検体の検査を実施するなど、感染性が高いデルタ株に対する監視体制を強化しながら、必要な対策を早めに講じてきたところでございます。</p> <p>そうした中、7月20日には、デルタ株の感染性の高さなどの影響も考慮した上で、札幌市内における感染拡大への早めの対応が必要であると判断し、速やかに、まん延防止等重点措置の国への要請を行うなど、高い警戒感を持って取り組んできたところでございます。</p> <p><b>【天野政策局次長】</b> 感染拡大への対応についてでございますが、道としては、デルタ株の感染性の高さを踏まえ、大型連休、お盆など、夏休みシーズンにおける帰省や旅行等の活発化を見据えた夏の再拡大防止特別対策としまして、札幌市内において、できる限り外出を控えることや、飲食店の時短など、独自の強い対策を早めに講じ、感染の抑制に取り組んできたところでございます。</p> <p>また、8月2日以降のまん延防止等重点措置及び緊急事態措置の下、国の基本的対処方針に基づく強い措置を講じてきており、全国的に過去最大規模の感染拡大が続く中、道民の皆様、事業者の方々のご協力によりまして、現在、新規感染者数は減少の動きが見られていると認識してございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>危機感があったと、対策も十全にしてきたということです。それでは感染拡大の要因はどこにあるのか。こうしたしっかりとした検証が必要だと痛感するものです。</p> <p><b>(四) 今後の対策について</b></p> <p>有識者会議において、GW前後の対策についての発言ですが「なぜ遅くなったのか何がネックだったのか振り返りが必要。後ろ向きの観点ではなく、前向きな建設的な検討を願う」との発言がありました。</p> <p>十分な検討が行われることで、緊急事態宣言の要請時期についても、適切な判断につながるのではないかと考えます。コロナウイルスはデルタ株からさらに変化を遂げているとの報告もあり、これまでの対策の適切な検討は欠かせないと考えます。どのように検討し、今後に生かすのか伺います。</p>	<p><b>【中村政策局長】</b></p> <p>今後の対応についてでございますが、道では、これまでも、感染状況や医療提供体制への負荷、道内主要地点の人流などについて、日々、モニタリングを行い、その上で、有識者の方々のご意見を伺いながら、毎週、対策本部において分析を行い、感染状況等に応じた適切な対策を講じるよう努めてきたところでございます。</p> <p>現在、道では、有識者会議において、新型コロナウイルス感染症に係るこれまでの一連の対応について、特に感染が拡大した3月下旬以降の対応状況を中心に振り返り、今後に向けた対応の方向性について、有識者の皆様にご議論をいただいているところでございます。</p> <p>道としては、まずは現在の緊急事態宣言下における感染抑止に全力で取り組みながら、有識者会議でのご議論を踏まえ、対策に反映すべきものは速やかに反映するとともに、今後のより効果的な取組につなげてまいる考えでございます。</p>